

# つながり

tsunagari

39

2024.12  
Winter

特集

「かからない・拡げない」を徹底する感染管理部

感染症に負けないために



多職種カンファレンスのようす

## 地域の医療機関のご紹介

当院は、皆さんにとって身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。こちらでは、当院の登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

### 大崎ペインクリニック

〒989-6221  
宮城県大崎市古川大宮三丁目8-10  
TEL 0229-22-1310  
<https://www.web-clover.net/oosaki-painclinic>



渡邊院長



#### 診療内容

麻酔科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科

#### 受付時間(外来)

午前 9:00 ~ 12:00  
午後 2:00 ~ 5:00  
※土は午前中のみ診療  
※新患受付は午後4時までになります

#### 休診日

日曜、祝日

#### 地域の皆さんへ

当院は平成30年8月に開院いたしました。ペインクリニックという言葉は聞きなじみがない方もいらっしゃるかと思います。ペインは英語で「痛み」を意味しますので、ペインクリニックは痛み全般に対する診療という事になります。具体的には腰下肢痛、肩の痛み、膝の痛み、帯状疱疹に伴う神経痛などに対し、神経ブロック、お薬、リハビリなどを行い、痛みの軽減に努めます。痛みのない生活を目指し、患者さんのお役に立てるよう、大崎市民病院様をはじめ他の医療機関様との連携もさせていただきながら、今後も取り組んでまいります。



## みんなのパタ崎さん

patasakisan



今回は「ほなみ食」のラーメンを食べさせてもらったパタ！  
「ほなみ食」は、治療によって食欲が出ないときでも食べやすいように考えられているパタ。他にも、むせないようにとろみをつけたり、アレルギーや栄養バランスを調整したり、入院中は患者さんひとりひとりに合わせた食事が食べられるパタ！  
食事は治療の一環パタ！少しでも早く元気になるために、しっかり食べるのが大事パタ！

#大崎市民病院 #病院食 #ほなみ食



# 感染症に負けたくないために

## 「かからない・拡げない」を徹底する 感染管理部

日本国内で新型コロナウイルス感染症が確認されてから4年が経過し、5類感染症へ移行したものの、今もなお感染は拡がっています。当院では、感染管理部を中心に、院内感染を防ぐとともに、地域の医療機関とも連携しながら適切な感染対策を行っています。

### 無意識に 感染を拡げないために

細菌やウイルスなどの微生物は、直接目で見ることはできません。そのため、無意識に感染を拡げてしまっている可能性があります。感染を防ぐために「身近な物には、感染症を起こす細菌やウイルスが付いている」という意識を持つことが大切です。そして、標準予防策を理解し実践することで、感染の危険性を減らすことができます。

施設、自宅で行う看護・介護などの全ての処置やケアの際、常に行う感染対策です。汗以外の体液や排泄物、分泌物などは、感染の可能性がある物質とみなし、手袋を着けて直接触れないようにするなどの対応が必要です。

また、感染症の診断には、検査結果が出るまで1〜7日間程度かかるものもあります。もしその間「感染症と診断されていないから」といって何も対策を取らないと、感染は拡大してしまいます。もし院内で感染症が発生した場合は、感染者に対して検査や薬の

処方だけでなく、消毒や隔離、防護服の準備などの特別な業務が発生します。感染していない患者さんに対しては行動制限が必要になり、精神的負担が発生します。また、スタッフが感染した場合は、人手不足によって通常のケアができず、サービスの質低下が懸念されます。院内感染予防のため、せきなどの症状がなくても、院内でのマスク着用にご協力をお願いします。

感染症や、感染源となる細菌やウイルスなどの病原体をゼロにすることはできません。しかし、感

### 地域全体で 感染対策の質を上げる

より効果的に感染症対策をするためには、多施設の連携が必要です。患者さんは、医療機関・介護施設・自宅を常に行き来しています。もし患者さんが感染症を起こす細菌やウイルスを持ったまま、標準予防策が上手くできていない施設を行き来した場合、知らない間に感染症を拡げている可能性があります。実際、尿にESBL産生菌(抗菌薬が効かなくなる細菌)を持つ患者さんが増えており、オムツ交換などの排尿処理をする際は、正しい感染対策が必要で

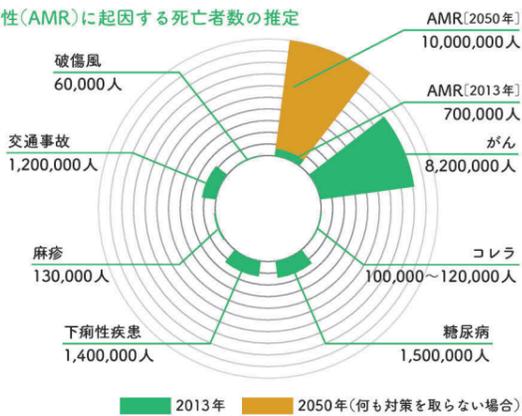
すべての医療機関や介護施設に感染の専門家は居ないので、地域の資源を活用して、地域全体の感染対策の質を上げることが重要と考えています。そのため、感染対策向上を目的とした他施設合同のラウンドや意見交換を行っています。



石巻十字病院との相互ラウンドのようす。感染対策などについて意見交換しています。



薬剤耐性(AMR)に起因する死者数の推定



「The Review on Antimicrobial Resistance」ウェブサイトを元に作成

### 薬が効かなくなるかも?!

処方された抗菌薬を正しく利用しないと、抗菌薬の効かない病原体が出現し、感染症の治療が困難になります。これを「薬剤耐性(AMR)」といいます。2013年時点でAMRによる死者は、全世界で年間約70万人以上おり、このままだと2050年には1000万人が死亡する可能性があると言われています。これは、がんによる死者数よりも多い数です。そ

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランで掲げる 6つの目標

※抗微生物剤…抗菌薬や抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬などの薬の総称

目標 1 普及啓発・教育	目標 4 抗微生物剤の適正使用
目標 2 動向調査・監視	目標 5 研究開発・創薬
目標 3 感染予防・管理	目標 6 国際協力

薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2023-2027(概要)を元に作成



さとう あきこ  
佐藤 明子  
感染管理部  
本院感染管理室長  
看護師

いぐさ りょうたろう  
井草 龍太郎  
感染管理部  
副部長  
医師

染が拡大し施設全体の機能が低下しないよう感染予防を理解し、日ごろから感染対策を行うことで感染の拡大を防ぐことが重要となります。

のため、世界保健機構(WHO)はAMR対策を重要な政策に取り上げており、日本でも2016年4月からAMR対策アクションプランを策定し、その中で抗菌薬の適正使用についてなどの6つの目標を掲げています。

ウイルスに  
負けない!

Tsunagari  
column

# 正しい手の洗い方

人が感染する要因の多くは、物に付いている細菌やウイルスが手に付着し、手を介して鼻や口、目から体内に入ることです。多くの細菌やウイルスは、ドアノブ・手すり・エレベーターボタン・電気のスイッチ等を介して手から手へと拡がり、それが感染拡大のきっかけとなります。日常の衛生習慣として手指衛生(手洗い、手指消毒)を行うことは、自分自身を細菌やウイルスから守り、感染症の拡大を防ぐことにつながります。正しい手順でしっかり洗いましょう。



無意識の内に手で顔に  
触れている回数  
**23回** / 1時間あたり  
粘膜への接触  
**約44%**

参考文献: Kwok, Yen Lee Angela, Jan Gralton, and Mary-Louise McLaws. "Face touching: A frequent habit that has implications for hand hygiene." American journal of infection control 43.2 (2015): 112-114.



手には無数の菌が付着しています。



STEP 1 水で濡らす  
全体的によく濡らします。



STEP 2 泡を付ける  
たっぷり泡を付けましょう。



STEP 3 手の平を洗う  
手の平を洗います。



STEP 4 手の甲を洗う  
手の甲も汚れがちです。しっかり洗いましょう。



STEP 5 指の間を洗う  
汚れが残しやすい所です。



STEP 6 親指を洗う  
意外と忘れがちな親指もしっかり付け根から洗います。



STEP 7 爪の間を洗う  
かなり菌が付着しやすいところです。



STEP 8 手首を洗う  
手首までしっかり洗いましょう。



STEP 9 泡を流す  
流し残しが無いように。



After  
汚れがほとんど無くなりました。



きちんと洗えていないと・・・  
指や爪の間、手首は汚れが残しやすいところです。

## 抗菌薬の適正使用を支援する

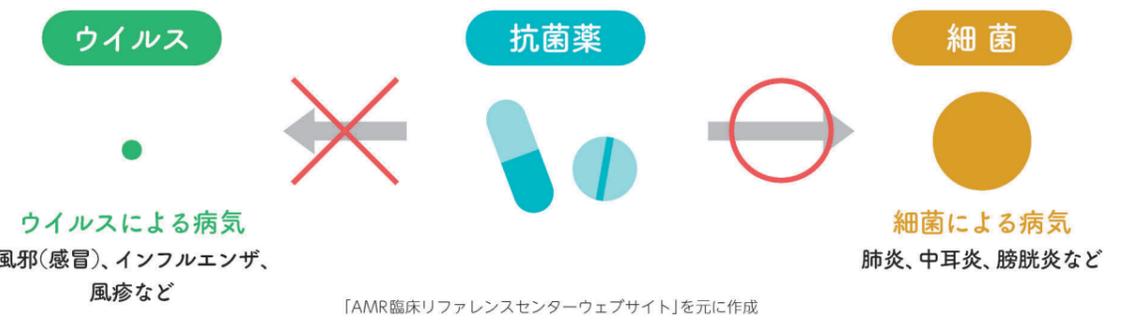
薬剤耐性(AMR)を防ぐために、当院では2018年に医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師による抗菌薬適正使用支援(AST)チームを立ち上げました。このチームでは、幅広い種類の細菌に効果がある広域抗菌薬を患者さんが適正に利用できているか、また、薬に耐性のある菌などの検出を確認したり、医療現場に対して適切な抗菌薬治療のアドバイスなどを行っています。また、入院患者さんへ感染症治療の助言もしています。ほぼ毎日活動しており、2023年には272件の助言を行いました。

今後は、院内だけでなく地域のAST活動が課題となっています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大時や、施設内での肺炎発症の際は、当該施設に赴いて感染症治療の助言を行っています。今後もより一層、地域の医療機関の抗菌薬治療の助言を行っていきます。

## 薬剤耐性を拡げないために一人一人ができること

AMRを拡げないためにも、私たち一人一人が、抗菌薬に対する正しい知識を持ち、正しい使い方をすることが重要です。3つのことに気を付けましょう。

①ほとんどの「風邪」には、抗菌薬が効きません。風邪症状の原因の多くはウイルス感染によるものです。炎症を起こし、くしゃみ、鼻水、せき、たん、のどの痛み、発熱などの症状はウイルスと体が闘っている状態で、いわゆる風邪薬は、その症状を緩和させるものです。抗菌薬は細菌を打ち倒すもので、ウイルスには効果がありません。



「AMR臨床リファレンスセンターウェブサイト」を元に作成

②抗菌薬は副作用がない限り、医師の指示どおり最後まで飲みましょう。症状が良くなると薬をやめてしまいがちですが、感染の原因となった細菌をすべて打ち倒したわけではありません。途中でやめてしまった場合、まだ生き残ったものが残り、年齢や体重、その人の腎臓や肝臓の状態でも効果に違いがあります。その人に合った抗菌薬が処方されていますので、とおいて別な時に飲んだり、他の人に処方されたものを飲んだりしないようにしましょう。正しく飲まない抗生薬が効かない菌「耐性菌」を生み出すことがあります。

③感染症にかからない・拡げないために、日ごろから基本的な感染対策をしましょう。手洗い・うがいなどをしっかり行い、栄養をしっかりと摂ることが重要です。

# がん相談 Q & A

がん相談支援センターでは、患者さんやご家族から、さまざまな相談が寄せられます。ここでは、よくある相談の一部を紹介します。



**Q** 自分のがんについて、もっと詳しい情報を入手したいがどうしたらいいのでしょうか？

**A** インターネット上には膨大な情報があります。中には、すでに使われなくなった古い治療法や、ある人にとっては当てはまるけれどご本人には当てはまらないもの、効果が科学的に確認されていない治療法を、患者負担が高額となる自由診療として提供しているものなども、数多く存在します。自分に合った確かな情報を見つけ出すのは非常に難しいので、気になる情報が見つかったら一人で判断せず、主治医やまわりの医療スタッフに相談してみましょう。また、国立がん研究センターが運営するウェブサイト「がん情報サービス」などは、正しい情報が掲載されているので、そちらを参考にするのも良いかもしれません。

特に主治医は、患者さんの診断や治療に関して最も重要な情報源になります。患者さんにとって、今どのように対応するのが医学的に一番良いか、医学の専門家として提案します。まずは主治医の説明をよく聞いて、知りたいことは遠慮せずに質問してください。

がん相談支援センターでは、患者さんの背景を整理した上で、必要な情報にアクセスできるようサポートしていきますので、いつでもご相談ください。

TEL 0229-23-3311 (代表)

大崎市民病院の先生をリレー形式でご紹介します！

## Team "tsunagari" チーム つながり

### Vol. 06

本院は43の診療科があり、現在常勤医師は151人所属しています。第6回は、内視鏡センター診療部長の佐藤雄一郎先生をご紹介します。普段は、皆さんの健康を守るために尽力している先生たちですが、実は意外な一面も…？

さとう ゆういちろう  
**佐藤 雄一郎**

診療部長

診療科 消化器内科

主な資格・認定 日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医

趣味 読書、園芸

愛犬との外出



県北における消化器内視鏡診療の最後の砦となれるようスタッフとともに日々精進いたしております。休日は愛犬と一日中戯れて過ごしております。涼しい季節になり、一緒に色々外出できるのが楽しみです。皆さんと愛犬の親ばか談義ができれば幸いです。

次回は、血液内科の高橋 太郎先生です。



# おおさき メディカルスポット

患者サポートセンター  
Vol.7 本院地域医療連携室

当院は、医師以外の職種のスタッフも、皆さんの健康のために医療を提供しています。今回は患者サポートセンター本院地域医療連携室から、「相談・調整・連携」の窓口として患者さんに寄り添う業務についてお話しいただきました。

### チームで患者さんを支える

地域医療連携室は、治療を受けている間もその後も、その人らしい生活を送れるように、地域の医療機関はもとより、福祉サービスの事業所や行政機関などと連携し、患者さんへの支援や地域で支える仕組みづくりを行う窓口です。

社会福祉士の資格を持つ医療ソーシャルワーカー（通称MSW）や看護師、薬剤師、管理栄養士などが、それぞれの技術・知識・経験を結集し、病気や治療についての不安や社会保障制度の利用、仕事と治療の両立など、さまざまな相談に対し、患者さんやご家族と一緒に考え、自分らしい生活を続けられるようにお手伝いしています。

入院が決まった患者さんには、面談室で、入院から退院までの治療や療養生活、手続きなどについて説明し、安心して療養に専念できる環境づくりを行っています。また、退院

後に地域で療養や生活を継続できるように、入院直後から退院に向けた問題点や課題について多職種で話し合い、必要に応じて、退院・転院後の療養生活を担う医療機関への連絡や調整、介護サービスなどを利用するための支援を行っています。また、各分院にも地域医療連携室が設置されており、患者さんの地域生活を支援しています。

### 地域の医療を支える仕組みづくり

「専門的な検査や治療が必要になったら当院で、日常診療や健康相談はかかりつけ医で」といった役割分担を推進しています。日頃から地域の医療機関との情報交換や研修会を通して、顔の見える相談しやすい関係を構築しながら、地域全体の医療の質向上と発展に努めています。皆さんには、身近で頼りになる地域のかかりつけ医を持つことをおすすめします。



連携医療機関からの急患を受け付けることもあります。



相談ブースで安心して相談ができます。